

開設講習名	【選択】英語の特徴を探る—比較言語学・対照言語学・認知言語学の観点から—		講師	武本 雅嗣	
講習会場	山口大学吉田キャンパス		会場所在地	山口県山口市	
開設日	平成29年8月9日		時間数	6時間	受講予定人数 50人
受講者募集期間	平成29年5月26日～平成29年6月3日		履修認定時期	平成29年9月30日まで	
履修認定対象職種	教諭	主な受講対象者	中学校・高等学校英語教諭		
受講料等総額	6,000円	(うち受講料以外の経費)			
<p>【到達目標】</p> <p>比較言語学・対照言語学および認知言語学の基本を理解したうえで、複数の視点から英語の諸相を観察することによって、英語の特徴を見出し把握する。そして、英語特有の諸現象について(生徒にも)説明できるようになる。</p>					
<p>【講習の概要】</p> <p>英語を他のゲルマン諸語やロマンス諸語と比較・対照することによってその特徴を浮き彫りにし、接触言語の影響に着目して英語の特殊性について考察します。また、英語を特徴づけている様々な現象について、諸言語との共通点と相違点も示しながら、認知言語学の知見を援用してわかりやすく解説します。講習は次のようなテーマに沿って進めていきます。</p> <p>0. 比較言語学・対照言語学・認知言語学のアプローチ</p> <p>1. 英語:インド・ヨーロッパ語族ゲルマン語派の個性的な言語</p> <p>1.1 語彙の面での特殊性(借用語の多さ, ラテン的色合いの濃さ)</p> <p>1.2 文法の面での特殊性(極端な単純化と部分的複雑化)</p> <p>1.3 強い言語接触による言語変化(古ノルド語(古北欧語), 古フランス語(古ノルマン語を含む), ラテン語の影響)</p> <p>2. 英語に起こった独特の諸現象</p> <p>2.1 語の意味変化(大量の流入語および本来語の意味はなぜどのように変化したか)</p> <p>2.2 構造上の変化:格関係から文法関係へ(格の消失と前置詞の多用, 自動詞の他動詞化, 非人称構文の消失と主語の明示化)</p> <p>2.3 様々な文法化(未来形, 進行形, be going to といった新しい文法形式の出現)</p> <p>3. 英語の時制・法・構文の用法と制約</p> <p>3.1 モダリティと時制(仮定法過去(接続法過去)と直説法過去, 仮定法現在(接続法現在)と直説法現在・命令法)</p> <p>3.2 二重目的語構文と前置詞与格構文(目的語を2つとる give, make から cost, envy まで)</p> <p>3.3 再帰構文の制限(hurt oneself, enjoy oneself まで)と受動形式の多用(be hurt, be interested まで)</p> <p>4. まとめ</p>					
<p>【評価の方法・評価基準】</p> <p>評価の方法: 筆記試験</p> <p>評価基準: 合格:講義の内容を理解し, 説明できる。</p> <p>不合格: 上記以外</p>					
<p>【テキスト・参考文献】</p> <p>事前にテキスト(資料)を配布予定。</p>					
<p>【受講者への伝達事項】</p> <p>英語以外の言語の知識がなくても受講可能です。筆記用具, 英語の辞書を持参して下さい。</p>					